

私たちの町の遺跡 中世の山城 城山 じょうざん

■「中世の山城 城山」

高橋稲荷神社や墓地がある「城山」は、「上代城」という城があった山です。

明応5(1496)年鹿子木親員(寂心)が築き、天正10(1582)年に落城したといわれています。

中世の山城には、近世城のような大規模な石垣や高層の櫓はなく、地形を生かして土塁や堀切を築き、建物は簡易なものでした。有事での「逃げ込みの城」としての用途が多かったようです。現在は貯水タンクや墓地の造成によって山の形状が変化し、山城らしい構造はわかりにくくなっています。

二の丸と思われる山の東側には、3基の古墳があります。大正時代に発掘調査がおこなわれ、市指定史跡として保存されています。6世紀の古墳です。高橋稲荷神社のある山の西側にも、石棺の一部が見える所があります。

市西部地区には、上代城の他にも上松尾城・下松尾城・榎崎城・池上城などがあり、戦国時代には城が多い地域でした。なお、高橋稲荷神社は、当初は上代城の鎮守社だったようです。

熊本市文化振興課埋蔵文化財調査室 網田龍生氏より



← 城山古墳

↓ 露出した石棺

